

## 弘前市相馬地区出土の経石について

今 野 沙貴子（弘前市公園緑地課弘前城整備活用推進室）

### 1 はじめに

平成25年（2013）3月25日、弘前市大字五所字野沢41 - 1に弘前市相馬庁舎（愛称：相馬やすらぎ館）が開庁した。この庁舎は「弘前市相馬総合支所」・「中央公民館相馬館」・「御所温泉」の3つの機能を併せ持った複合施設であり、それまで中央公民館相馬館として利用されてきた施設（弘前市五所字野沢44 - 3所在）は長年の役目を終えることとなった。施設の玄関ロビーには考古遺物が展示されていたが（写真1）、閉鎖に伴い撤収する必要が生じたため、平成25年3月13日、弘前市教育委員会文化財保護課により撤収作業が行われた。遺物は現在、弘前市樋の口分庁舎の倉庫内に保管されている。

旧中央公民館相馬館におけるロビー展示は平成12～14年（2000～2002）頃、当時の相馬村教育委員会によって開始された。展示内容としては、旧相馬村（相馬地区）の湯口長根遺跡（平成10年試掘調査）・一ノ下り山遺跡（平成13年本発掘調査）出土品が大部分を占めていたが、それら以外にも相馬地区出土と思われる資料が少量ではあるが見受けられた。その中に、16点の経石が含まれている（写真2）。弘前市教育委員会では、展示を終了した平成25年3月時点において、本経石に関する情報を展示キャプションの記載内容以外に把握していなかったが（写真3）、その後の聞き取り調査により、本経石が相馬地区出土のものであるという確証を得ることができた。今までに弘前市内において把握されていた近世の経石出土地は国吉経塚遺跡（弘前市大字国吉字村元）・新法師経塚遺跡（弘前市大字新法師字泉）の2ヵ所だけであり、本経石は市内における新たな近世経塚出土品として注目される。

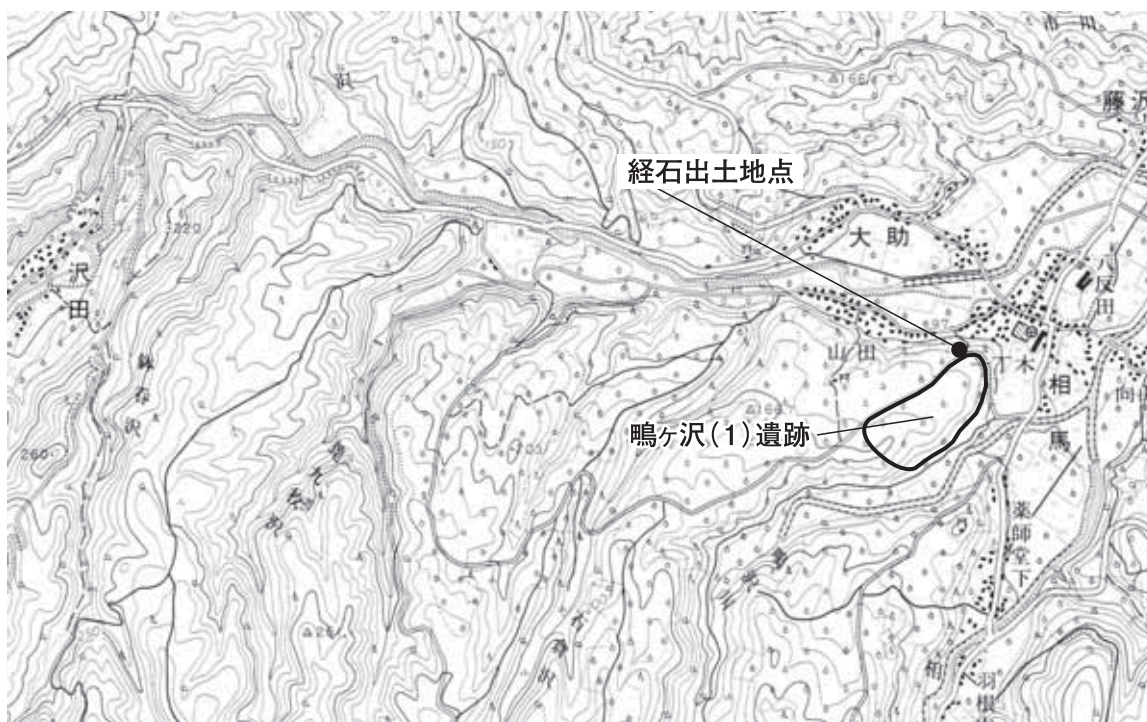


図1 経石出土地点位置図（国土地理院発行 陸奥田代 S=1 / 25,000）

本稿では、まずこれらの経石がいつ、どこで出土し、展示されるまでに至ったのかの経緯を整理する。この内容については、平成25年6月3日に行った弘前市相馬総合支所総務課・三上久光氏からの聞き取り調査が基礎となっている。次に、今後の調査・研究に資することを目的として、青森県内で確認されている類似の遺跡の集成を示す。今回集成をまとめるにあたっては、国立歴史民俗博物館「経塚データベース」作成のため、平成15年度に関根達人氏・藤田俊雄氏・森淳氏・中田書矢氏らを中心としてまとめられた青森県の成果を活用した。また、本稿の写真図版作成にあたっては、石郷岡幹人氏の協力を受けたことを明記しておく。

## 2 相馬地区の地理的・歴史的環境

弘前市相馬地区は、津軽平野の南西部に位置する。平成18年(2006)2月27日、弘前市・岩木町と合併するまでの自治体名は、「中津軽郡相馬村」であった。地区の87%以上を山林が占め、丘陵地帯にはりんご園が、地区中央部を流れる相馬川流域の平坦部には水田と集落が広がる農村地帯であり、およそ3,900人の人口を有している。

地区には多くの伝承が残っており、古くは大同2年(807)の坂上田村麻呂の東征伝説がある。田村麻呂に討たれた相馬山の蝦夷の首長を葬ったという石堂塚の伝説、田村麻呂が不動尊を安置したと言われる大助の愛宕神社跡をはじめ、後述する上皇宮も元々は田村麻呂の勧請と伝えられる。

持寄城跡は、鎌倉幕府の滅亡で津軽に逃れた北条氏の残党が最後に立てこもった場所とされる。相馬地区藤沢には、この持寄城跡の比定地があり、かつて主郭から炭化米が出土している。

相馬地区紙漉沢は、南北朝期の長慶天皇の終焉地と伝わり、昭和19年(1944)に京都に御陵があると決定されるまで、陵墓参考地とされていた。それに因み、集落西端の山裾に現在も残る上皇宮の祭神は、長慶天皇とされている(相馬村誌編集委員会1982a・月足1982・青森県高等学校地方史研究会2007)。

後述する経石出土地点は、近世の「相馬村」に該当する。「相馬村」は近世には開田されていたが、冷水や水害の繰り返しで米の作況が悪く、炭焼などの山仕事を組み込んだ生活形態が浸透していた。また、弘前城下より街道が通じており、「新撰陸奥国誌」によると明治元年(1868)には88の家数があったとされる(月足1982)。本稿で扱う経石は、この近世「相馬村」に住んでいた人々の信仰を現代に伝えている可能性がある。

## 3 経石出土から展示までの経緯

### (1) 経石発見の経緯

経石は昭和60年(1985)頃、現在の弘前市大字相馬字竜ヶ平・鳴ヶ沢付近から出土した(図1・写真4-6)。県営事業で「農免農道竜ヶ平線」を整備する際、道路拡幅のため山の斜面を削る工事中的出土という、偶然の発見であった。経石出土地点南側の斜面上には、鳴ヶ沢(1)遺跡が広がる。

工事業者より経石出土の連絡を受けた相馬村教育委員会は、直ちに現地へ向かい、経石出土状況を確認の上、カラーフィルムを用いて記録写真を撮影した。その際、経石の墨書は鮮明に残っていたということである。なお、この時の記録写真は、現在所在不明となっている。

経石を検出した土層は、礫を含まない砂質土だったとのことで、地山層での検出と考えられる。道



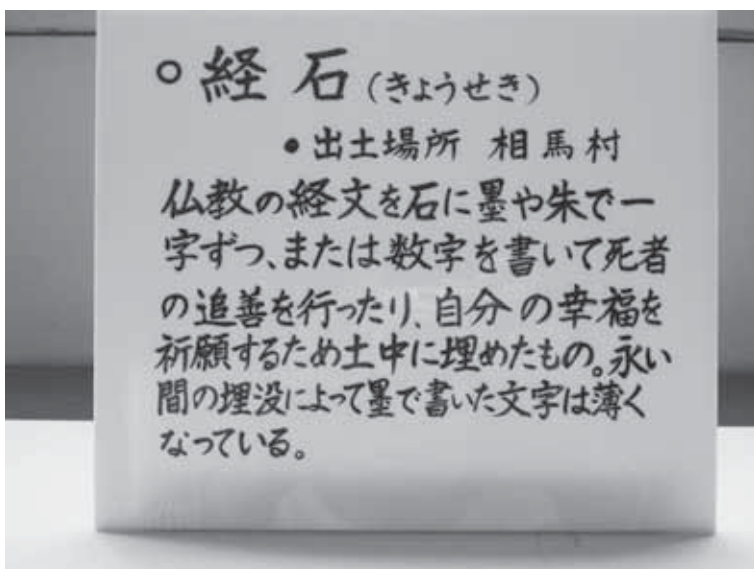
〔写真 1〕  
旧中央公民館相馬館ロビー展示

ありし日の風景。展示遺物は既に撤収され、弘前市樋の口分庁舎倉庫内に保管されている。



〔写真 2〕  
経石展示状況

写真のとおり、16点の経石が展示されていた。このうち、墨書を確認できるものは4点。



〔写真 3〕  
経石展示キャプション

旧相馬村内の出土であることが明記されている。



路拡幅のための掘削範囲は斜面部分のみであったとのことであるが、急斜面に経塚が造営されたとは考えにくい。本来は斜面上部の平坦面端部（鳴ヶ沢（1）遺跡の北端）に経塚が造られていたものの、最初の道路建設工事の時点で上部を壊されていたと考える方が自然であろう。壊されずに残っていた遺構の下部が、昭和60年頃の拡幅工事の際に発見されたものと推測される。

一般的に、近世の礫石経塚は「経碑」と呼ばれる石碑・石塔を伴うことが多いが、本遺跡においてはそれらしい石碑・石塔の存在は確認されていない。経石にまつわる伝承なども、地元には残っていないようである。

経石は工事業者によりすべて回収・洗浄され、後日相馬村教育委員会に届けられた。経石の量は膨大で、大型土のう袋（いわゆるトンパック）3つ分もあったという。この時、経石を確認した村教委担当者は、経石出土直後よりも墨書がだいぶ薄くなっていることに気付いたという。洗浄時に墨書が落ちてしまった可能性もあり、この種の遺物を取り扱う際には注意が必要であることを示唆するエピソードである。

回収された経石は、相馬村の民俗資料保管庫（現在の相馬ふれあい館）に収蔵されていたが、公民館に展示されていた16点を除き、現在では所在不明になっている。出土状況の記録写真や遺物の大部分を紛失している現状は残念であるが、本遺跡は相馬地区内で確認されている唯一の礫石経塚であり、その発見の意義は非常に大きいと言える。

## （2）鳴ヶ沢（1）遺跡

鳴ヶ沢（1）遺跡は、標高120～150mの丘陵上に所在する。縄文時代（前期・後期）と平安時代の遺物を採集できる埋蔵文化財包蔵地であり、現況はりんご園・畑地となっている。包蔵地として新規発見・登録されたのは昭和36年（1961）のことであり、『相馬村誌』では以下のように紹介されている。「鳴ヶ沢遺跡（1）（大字相馬字鳴ヶ沢）薬師長根と竜ヶ平の尾根の間 縄文後期（石皿、磨石） 沢に沿った道路改修の際多くの遺物を出している。」（相馬村誌編集委員会1982b）

また、それ以降の開発協議・立会・パトロール等の記録は、以下のとおりである。

平成18年（2006） 北林八洲晴調査員による遺跡分布調査において、縄文時代前期の土器片及び土師器を少量確認したことから、時代に縄文時代前期及び平安時代を追加する。

平成21年（2009） 土木工事等のための発掘に関する通知書（配水管布設替工事）

上述のとおり、本稿で扱っている経石は本来、本遺跡の範囲内に埋納されていた可能性が高い。本遺跡に、近世の信仰遺跡としての性質を追加してもよいものと思われる。経石出土地点からは、北西方向に岩木山をきれいに望めるだけでなく、東側に弘前の盆地も見渡すことができた。近世の礫石経塚の立地条件を示す、良好な事例であろう。

## （3）展示されていた経石

既述のように、旧中央公民館相馬館でのロビー展示は、平成12～14年（2000～2002）頃から開始された。湯口長根遺跡・一ノ下り山遺跡出土品以外の遺物は、すべて地元の方々が旧相馬村内で採集したものである。元々は相馬中学校図書室に教材として展示・保管されていたが、校舎新築の際、中学校から村教育委員会が譲り受けた。以降、より広く村民に出土品を公開するため、公民館での展示を



〔写真4〕  
経石出土地点遠景（南東から）

写真左側に写る小高い丘陵上が、鳴ヶ沢（1）遺跡。



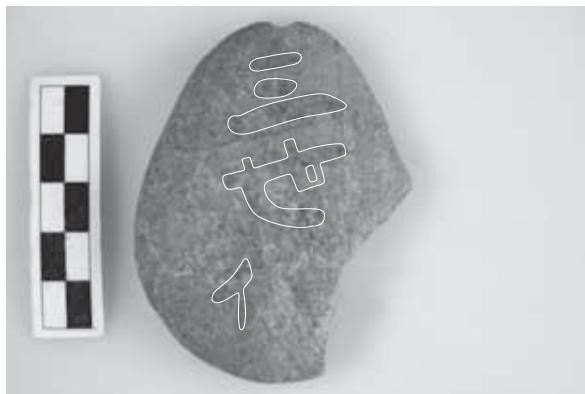
〔写真5〕  
経石出土地点近景（南から）

道路拡張のため、写真左側の法面を掘削した際に経石が出土している。経石出土地点からは、岩木山がよく見える。

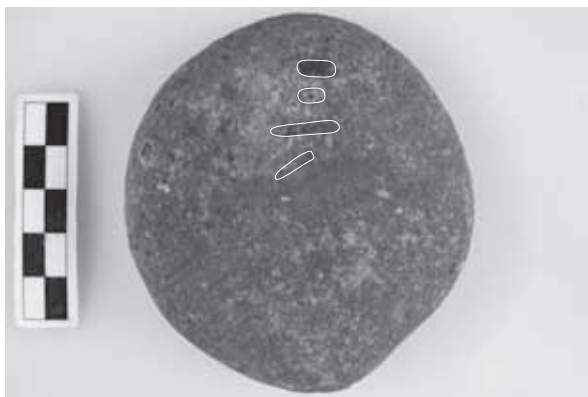


〔写真6〕  
経石出土地点近景（南西から）

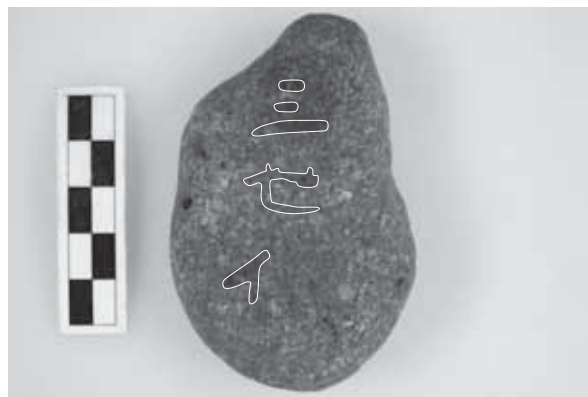
道路拡張のため、写真右側の法面を掘削した際に経石が出土している。法面の上には、鳴ヶ沢（1）遺跡が広がる。写真左側奥に写るのは、弘前の市街地。



[写真7] 墨書のある経石①



[写真8] 墨書のある経石②



[写真9] 墨書のある経石③



[写真10] 墨書のある経石④

始めたとされる。

展示されていた16点の経石は、民俗資料保管庫に収蔵していたトンパックの中から選び出してきたものと考えられるが、既に展示を担当した職員が退職しており、詳細は不明である。経石はすべて扁平な川原石であり、最も小さいもので長軸6.2×幅4.7×最大厚1.5cm、大型のもので長軸11.6×幅8.4×最大厚3.1cm、長軸12.6×幅5.5×最大厚2.7cmほどである。16点のうち、明確に墨書を確認できるものが4点、わずかに墨書らしき痕跡の残るものが1点、全く墨書を確認できないものが11点ある。以下に、墨書を確認できる4点について報告する。

【写真7】墨書：「三世 」。三世佛か？ 法量：長軸7.2×幅5.6×最大厚1.2cm。

【写真8】墨書：「三 」。法量：長軸8.1×幅7.5×最大厚2.6cm。

【写真9】墨書：「三世 」。三世佛か？ 法量：長軸7.9×幅5.1×最大厚1.5cm。

【写真10】墨書：「三 」。三世か？ 法量：長軸9.0×幅7.0×最大厚1.2cm。

4点すべてにおいて、墨書は片面のみに確認できた。墨書の内容は、すべて「三」で始まる複数文字である。展示担当者が、意図的にそのような経石を選び出したのか、それとも回収した経石のすべての墨書が同じ内容であったのか、興味深いところである。

#### 4 青森県の礫石経塚集成

最後に結びとして、青森県内で確認されている礫石経塚を示す(表1)。現時点で、津軽地方に34カ所、南部地方に55カ所を確認した。以下に凡例を記す。

- (1) 集成には、経石の出土が未確認の参考地も含んでいる。また、全国には廻国供養塔下に経石が埋納される事例も散見されることから(今野2010)、近世の廻国供養塔も集成に含めている。
- (2) 石碑銘文については、基本的に石碑正面のものを掲載した。正面銘文の他に側面・裏面の銘文も掲載した場合、あるいは銘文の一部を抜粋しているような場合には、「」を付けて記してある。
- (3) 今回の集成における引用・参考文献については、紙面の都合上今回は割愛した。文献なども含めたより詳細な情報の公開は、次の機会に委ねることとしたい。

【引用・参考文献(青森県の礫石経塚一覧に用いた分は割愛)】

青森県高等学校地方史研究会2007『青森県の歴史散歩』株式会社山川出版社 pp. 44 - 45

今野沙貴子2010「鹿角市長福寺経塚 埋納品のある近世廻国供養塔の一事例」『秋田考古学』第54号 pp. 61 - 68

今野沙貴子2013「鹿角市本光院の経塚」『秋田考古学』第57号 pp. 71 - 78

相馬村誌編集委員会1982a「村のおいたち」『相馬村誌』相馬村 pp. 3 - 5

相馬村誌編集委員会1982b「相馬村埋蔵文化財包蔵地」『相馬村誌』相馬村 pp. 21 - 26

相馬村教育委員会1999『湯口長根遺跡』相馬村文化財調査報告書第1集

相馬村教育委員会2002『一ノ下り山遺跡』相馬村文化財調査報告書第2集

月足正朗1982「相馬村」『青森県の地名』株式会社平凡社 pp. 450 - 454



表1 青森県の礫石経塚一覧(参考地含む)

## (1) 津軽地方

	遺跡名または所在地	紀年銘・時期	石碑あるいは経石銘文	備考
1	新法師経塚遺跡 (弘前市大字新法師字泉)	近世		約4㎡の川原石の小丘。消滅後も、その西南を通る旧道で経石が拾えた。
2	国吉経塚遺跡 (弘前市大字国吉字村元)	近世		白山権現神社裏手の畑に、大量の一字一石経が埋没していたとされる。
3	鳴ヶ沢(1)遺跡 (弘前市大字相馬字鳴ヶ沢)	近世		1985年(昭和60)頃、道路拡幅工事の際に大量の経石が出土した。そのうちの16点は、現在弘前市教育委員会が管理されている。
4	山観経塚 (弘前市西茂森町2丁目)	嘉永3(1850)		曹洞宗観音山普門院境内に所在。願主は「観音講中19名」、勸進僧は「普門院 庵主 大然」。自然石の納経塔。
5	南貞庵 (弘前市大字高杉字山下)	寛政12(1800)	奉納大乘妙典六十六部 日本廻国	廻国供養塔。佐渡・宮浦の人が建立。
6	弘前市 東目屋地区			廻国供養塔。
7	巖鬼山 (弘前市)	近世		岡山県笠岡市・木山公二氏所蔵「大乘妙典納経帳」(元文3・1738)に、津軽郡の巖鬼山で納経している記録がある。「岩木山三所大権現本地仏、石頭山」。続いて、下北・恐山でも納経している。
8	荒神山遺跡第50・51マウンド (弘前市大字八幡字長沢)	16世紀		1968年(昭和43)試掘。一字一石経、政和通宝、元祐通宝が出土。中世墓である可能性が高い。
9	弘前市大字紙漉字山越	宝暦7(1757)	奉納大乘妙典六十六部 日本廻国供養	廻国供養塔。
10	荒田遺跡 (平川市荒田字下駒田)			一字一石経が出土。
11	福田遺跡 (平川市広船福田)	中近世		一字一石経が出土。
12	京塚 (南津軽郡田舎館村)			『新撰陸奥国志』巻十五に記述あり。
13	西光院 (青森市浪岡大字北中野)		奉納大乘妙典六十六部 日本廻国	廻国供養塔。「津軽浪岡」の3名が建立。角柱型の石塔で、下部に蓮華台、上部に笠を持つ。
14	青森市浪岡女鹿沢	嘉永4(1851)	玉林明光居士廻国御同行衆中	廻国供養塔。松枝の共同墓地に所在。「備前国出俗名寅吉」という人名あり。
15	浄土宗観音寺 (青森市久栗坂字浜田)	寛政10(1798)	日本回国供養塔	廻国供養塔。
16	青森市上野	享保17(1732)	奉納日本廻国六十六部 諸願成就皆令満足	廻国供養塔。墓地に所在。「奥州津軽上野村弥兵衛」という人名がある。
17	つがる市木造館岡			廻国供養塔。
18	納経塚 (青森市高田)	嘉永6(1853)	奉納観世音菩薩納経塚 右往還 左入内道	道の分岐点に所在。傍らに松もあり、道標の役割も果たしている。石碑背面に「野沢村領主新山久助」の名がある。伝説によると、この石碑はかつて旧豆坂道の地藏堂傍にあったが、後に現在地に移された。納経塚になったのは現在地に移ってからで、津軽二十四番札所入内観音に関係するものとされる。
19	三内霊園(旧蓮華寺)元禄飢饉 供養塔 (青森市三内霊園)	宝永4(1707)	「妙法蓮華経 餓死 諸」「露滴除熱得清凉」 「飢国来恩過大王」	元々は、日蓮宗廣布山蓮華寺墓地内にあった。左側面に「全部金文一石一字書写之奉納斯墳墓」という刻字あり。施主は「豊田宗治」、勸進僧は蓮華寺8世日考。豊田氏は有力商家で、幕末には蓮華寺総代を務めている。
20	法峠寺経塚 (黒石市高館字甲高原)	近世	奉書 写一字一石 妙 経全部納	
21	毛内墓地 (黒石市 川岸地区)	明治28(1895)	妙経全部 一字一石塔	
22	竹鼻の廻国納経塔 (黒石市大字竹鼻)	正徳4(1714)	奉納中供養六十六部	竹鼻八幡宮に所在。竹鼻村の乗田安兵衛夫妻が建立。関東地方の9名の名前も刻まれている。
23	西馬場尻共同墓地天明飢饉供 養塔 (黒石市西馬場尻字福村)	文化3(1806)	「凶歳餓死疫癘死亡」 「奉納大乘妙典日本廻 国」	共同墓地内に所在。石塔は自然石で、廻国供養を示す銘文は右側面にある。飢饉供養と廻国供養を兼ねた事例。飢饉供養塔の造立者は「種市久六」。廻国供養には、「信州佐久郡入沢村」の「行者 大助」が関係している。
24	日光院墓地前天明飢饉供養塔 (東津軽郡平内町小湊字亦明堂)	天明7(1787)	「奉書写大乘妙典全部 一字一石供養塔」「為 餓死并日本国中有縁無 縁」「三界万霊草木国 土悉皆成佛」	日光院墓地前、旧奥州街道沿いに所在。勸進僧は、「東福十一代」(曹洞宗東方山東福寺十一代住職)。
25	曹洞宗正法院 (東津軽郡蓬田村阿弥陀川)	安永6(1777)	奉納大乘妙典日本廻国 供養塔	廻国供養塔。「白岩蓮池大姉 願主蓬田村武井・・・」という人名がある。
26	川崎遺跡 (西津軽郡鰺ヶ沢町館前町)	近世?		独立丘陵上に立地。「姫子塚」と呼ばれる。一字一石経が出土。
27	無量庵経塚 (西津軽郡鰺ヶ沢町田中町)	享保年間 (1716-36)	大乘妙典一字一石禮三 我等与众生智共成佛道	曹洞宗通幻派無量庵境内の墓地に所在。
28	宝泉寺経塚 (西津軽郡深浦町岡町)	明和4-天明8 (1767-88)		曹洞宗寺院・宝泉寺境内に所在。約7万点の経石が出土した。願主は、深浦の大高杏因定司。
29	経の松経塚 (西津軽郡深浦町影之町)			クロマツの大樹を「経の松」と呼んでいる。
30	甲子塚 (北津軽郡中泊町大字中里字 亀山)	享保11(1726)	「一天四海皆帰命奉 書」薄市弘法寺五世」	1956年(昭和31)発見。弘法寺境内より、経石6,996点と寛永通宝27点、元豊通宝1点出土。左の銘文は、出土した経石に墨書されていたもの。
31	中里薬師堂経塚 (北津軽郡中泊町中里字平山)			中里薬師堂近くの円墳状の盛土から経石出土。薬師堂の創建は、貞享元年(1684)以前と考えられる。
32	弘誓寺経塚 (北津軽郡中泊町尾別)			天台宗胡桃谷山解脱院弘誓寺境内に所在。数点の経石と、それが納められていた外容器を弘誓寺で所蔵している。
33	香取神社 (五所川原市持子沢字笠野前)	天保12(1841)	奉納大乘妙典	廻国供養塔。「石寄進宮館村対馬庄左工門 願主行者弥五右衛門 世話人山田惣次郎」の人名あり。
34	曹洞宗長円寺境内 (五所川原市飯詰字福泉)		奉納大乘妙典六十六部 日本廻・・・	廻国供養塔。



## (2) 南部地方

	遺跡名または所在地	紀年銘・時期	石碑銘文	備考
1	櫛引八幡宮経塚 (八戸市八幡字八幡丁)	文久2(1862)	奉納 大乘妙典六十六部 中供養	廻国供養塔。櫛引八幡宮西参道三叉路(櫛引八幡宮への参道入口)に所在。
2	延命山善照院 (八戸市田面木)		奉納 大乘妙典 天下和順日月清明 日本六十六部回国塔	廻国供養塔。自然石の供養塔。
3	光龍寺 (八戸市大字田面木)		奉納 大乘妙典 天下和順日月清明 日本六十六部回国塔	廻国供養塔。自然石の供養塔。
4	上田面木の石碑群 (八戸市田面木字上田面木)		六十六部日本回国	廻国供養塔。文化8年(1811)の庚申塔、安政3年(1856)の金毘羅大権現碑などとともに保存されている。
5	対泉院経塚 (八戸市新井田字寺ノ上)		南無阿弥陀仏 日本廻国供養塔	廻国供養塔。貴福山対泉院参道脇に所在。「宿本當所松橋六兵衛阿林相閑居士 尾州名古屋願主和吉」という人名が刻されている。
6	無縁塚 (八戸市根城4丁目)		六十六部供養塔	「無縁塚」「雨走の仕置場」などと呼ばれる刑場跡に所在。寛延3年(1750)の飢饉餓死者供養塔等、石碑数基とともに保存されている。
7	笹ノ沢頭経塚遺跡 (八戸市坂牛字笹ノ沢頭)	近世		明瞭にマウンドがあるわけではなく、その他の施設の有無も不明。地面を1mほど掘り下げた際、偶然発見。一字一石経56点、川原石多数、寛永通宝1点が出土している。櫛引八幡宮の前にあった六坊の僧が、写経した石をこの場所に埋めたという伝説がある。
8	石動木経塚 (八戸市新井田字石動木)	文化15(1818)	奉書写宝篋印陀羅尼經卅三卷大般若理趣分經壹百卷大乘妙法蓮經壹部石経供養塔	石動神社前に所在。世話人は「石動村傳治良」。願主として「石動村中」「松山村中」「重地村中」「後庵村中」「西門前」らが、「諸人馬」を「寄進」している。
9	南宗寺経塚1号 (八戸市長者1丁目)	宝永4(1707)		八戸藩士・接待宗碩が68歳の時に建立した経塚。月溪山南宗寺には宗碩の墓所があり、経塚はその裏にある。経碑には、宝永4年(1707)に前妻を弔うため墓に経石を納めたこと、本経碑を宗碩自身と前妻の墓碑として享保4年(1719)に建てたこと等が記されている。
10	南宗寺経塚2号 (八戸市長者1丁目)	天保6(1835)	寶樓閣陀羅尼經一字一石供養塔	月溪山南宗寺境内に所在。
11	南宗寺経塚3号 (八戸市長者1丁目)	明治4(1871)	大乘妙典一石一字供養塔	月溪山南宗寺境内に所在。
12	根城跡SX40方形周溝 (八戸市大字根城字根城)	享保3(1718)	「大乘法華經一葉一字」 「卅八之其一」	接待宗碩79歳の時の経塚。根城本丸に、木の葉に写経した一葉一字の経塚を建立。本丸西端に「一葉一字」の文字がある石塔所在。根城廃城後、明治初年(1868)まで「根城八幡宮」が位置した地点でもある。
13	廣澤寺経塚 (青森県八戸市類家2丁目)	享保3(1718)	「大乘妙典一字一石」 「卅九之其一」	接待宗碩79歳の時、亡くなる前年に建立した経塚。本経塚が、現存する宗碩の経塚の中で最新のものである。銘文の「卅九之其一」は、宗碩が造営した経塚の総数(39基)を表している可能性がある。月峯山廣澤寺山門前に所在。
14	櫛引遺跡 (八戸市櫛引)			櫛引城跡北側の今館に石塔が建てられており、経塚といわれている。
15	禅源寺経塚1号 (八戸市長者1丁目)	享保18(1733)	「大乘妙典一石一字」 「三界萬靈一切貪識」	臥龍山禅源寺参道脇に所在。施主は「宗七兵衛尉」、勸進僧は「臥龍山禅源寺現住大江」。
16	禅源寺経塚2号 (八戸市長者1丁目)	延享元(1744)	「金剛般若波羅多密經」 「一石一字漸寫依功」	臥龍山禅源寺参道脇に所在。願主は「大江」。
17	心月院経塚1号 (八戸市吹上1丁目)	寛政4(1792)	大乘妙典一石一字三禮	松峯山心月院の墓地内に所在。石塔の左側面に「為恵視院殿香洲智蓮大師」とあり、死者の供養のために建立されたものと分かる。
18	心月院経塚2号 (八戸市吹上1丁目)	天保6(1835)	寶樓閣陀羅尼經一字一石供養塔	松峯山心月院の山門脇に所在。
19	涼雲寺経塚 (八戸市坂牛字坂牛)	寛保元(1741)	金剛般若波羅密多經一軸一石一字功量共圓遍	福聚山涼雲寺境内に所在。願主は「八戸十三日町と五兵衛 山田氏権七郎」、勸進僧は「臥龍山禅源寺現住大江東義」。
20	十和田市大字深持字森・柳原	文政13(1830)	日本廻国納経供養塔	四国・薬王寺の大空が、全国を巡礼後に十和田板ノ沢集落に住み、廻国供養塔を建立した。巡礼は文政3~12年(1820-29)に行われ、その際の「廻国納経帳」を供養塔に納めている。
21	岩井永寿院経塚 (十和田市滝沢字館)	近世		岩井永寿院跡の宅地より、一字一石経が出土。現在は、隣接する法性寺境内に移設されている。
22	下平(1)遺跡 (十和田市赤沼字下平)	近世		新山神社境内の一字一石経塚。上に赤沼備中の墓石がある。
23	泉田経塚 (十和田市伝法寺泉田)	近世		宅地造成の際発見。一字一石経。
24	三日月経塚 (十和田市沢田字三日月)	近世		國明観音堂境内に所在。
25	陽広寺経塚 (三戸郡南部町剣吉上町)	正徳元(1711)	大乘妙典一字一石	石田山陽広寺本堂脇に所在。接待宗碩72歳の時の経塚。新しい戒名をもらった江戸出身の太兵衛のために、記念として造営された。
26	永福寺経塚 (三戸郡南部町沖田面字早稲田)	中世?		南部氏の居館跡である聖寿寺館跡に隣接して所在。礎を積み上げた塚で、経塚と伝えられている。
27	下モ平経塚 (三戸郡南部町沖田面字下モ平)			かつて畑の中から経石が多数出土した。
28	法光寺経塚1号 (三戸郡南部町法光寺字法光寺)	寛保元(1741)	「六道 化地藏」 「一字一石 大乘金剛般若經 書寫轉讀」	白華山法光寺の参道脇に所在。
29	法光寺経塚2号 (三戸郡南部町法光寺字法光寺)	元治2(1865)	大乘妙典六十六部供養塔	廻国供養塔。白華山法光寺境内に所在。「願主 常之助 文」「世話人 長郎」「後見 長吉」という人名あり。

30	小舟渡海岸の経塚 1号 (三戸郡階上町大字道仏字鹿倉)	宝永3(1706)	大乘妙典一石一字宗碩 居士書安置此	接待宗碩67歳の時の経塚。現在確認できる宗碩の経塚の中で最古のもの。海の災害供養・死者供養のために造営。また、本経塚の向かいに小舟渡集落共同墓地があり、そこに眠る人々を供養する意図も考えられる。経石の出土確認。
31	小舟渡海岸の経塚 2号 (三戸郡階上町大字道仏字鹿倉)	宝永3(1706)	大乘妙典一石一字関 叟宗碩謹而成之	接待宗碩67歳の時の経塚。現在確認できる宗碩の経塚の中で最古のもの。
32	寺下の経塚 (三戸郡階上町大字赤保内字 寺下)	宝永7(1710)	大乘妙典一石一字接 待宗碩成之	寺下潮山神社境内脇に所在。接待宗碩71歳の時の経塚。元々は寺下観音堂があった場所。経石の出土が確認されている。
33	大蛇海岸の経塚 (三戸郡階上町大字道仏字大蛇)	正徳3(1713)	大乘妙典一石一字	接待宗碩74歳の時の経塚。海難事故を防ぐため、経典を海底に安置し経塚を造営、干拝した。
34	法師窪 (三戸郡階上町道仏)		大乘妙典一葉一字関 叟宗碩居士 安置處 寶紙或石共 十二	接待宗碩の経塚。石碑が土中に埋まっているため、未確認の銘文がある。かつては石碑の半分くらいが土中に埋まっており、それが掘り出されて現在地に置かれた経緯がある。木村家が石碑を管理している。
35	観音平の石碑群 (三戸郡階上町)		「奉漸妙法蓮華經 一 字一石」「功誉寿徳」	赤石大明神境内に所在。
36	三戸郡三戸町斗内字田屋ノ下	天保3(1832)	六十六部日本回国供養 塔	「出羽三山」「十和田山」「金毘羅山」「田方山」等の石碑とともに保存されている。斗内の村端、旧鹿角街道沿いに所在。
37	上北郡六ヶ所村平沼	文政7(1824)	大乘妙典廻国供養	廻国供養塔。肥後国芦北郡の中村おつるが建立。
38	山屋(1)遺跡 (上北郡七戸町字山屋)	近世		小石を敷きつめた上に碑が建てられている。碑文は判読できない。敷石は、「×」印を刻した扁平な小石。
39	山館遺跡 (上北郡七戸町字山館)	近世		一字一石経の経塚。1977年(昭和52)、和田川防災ダム建設に伴い、町教育委員会が発掘調査。経塚の半分程度は調査前に既に失われていたが、調査の結果5,300点以上の経石が出土したとされる。ただ、出土した経石の大部分は無文礫だった。経石とともに寛永通宝(新寛永)が出土している。
40	青岩寺境内石塔群 (上北郡七戸町字町)	安永3(1774)	日本回国納経供養塔	廻国供養塔。「願主愚然敬白」「為観有禪定門 妙幽禪定門 雪桂禪定門」という、人名に関わる銘文がある。
41	犬落瀬遺跡 (上北郡六戸町大字犬落瀬字 若宮)	近世		曹洞宗寺院・光昌寺の本堂裏に所在。一字一石経が出土。光昌寺の創建は万治元年(1658)。
42	福聚院経塚 (上北郡五戸町上大町)	近世?		戦時中、観音堂(西沢山福聚院)境内で防空壕を掘った際に、多数の経石が出土した。その後、経石は再び埋め戻された。
43	大安寺経塚 1号経塚 (むつ市大畑町本町)	万治3(1660)		曹洞宗大安寺のある丘陵、薬師堂の東斜面で発見。2基の経塚のうちの1基。急傾斜地崩壊防止工事に伴い、1984年(昭和59)に発掘調査。中型の礫に経石と寛永通宝が納められていた。マウンドの有無は不明。
44	大安寺経塚 2号経塚 (むつ市大畑町本町)	寛文9(1669)		曹洞宗大安寺のある丘陵、薬師堂の東斜面で発見。2基の経塚のうちの1基。急傾斜地崩壊防止工事に伴い、1984年(昭和59)に発掘調査。土坑に経石が直接埋納されていた。マウンドの有無は不明。
45	本門寺天明飢饉供養塔 (むつ市大畑町字東町)	寛政10(1798)	南無妙法蓮華經 一石 一字餓死供養塔	本門寺山門右側に所在。日省和尚が、餓死者の供養並びに開山の百年忌を営むために建立。元々は、大畑町野頃にあった。現在地には、明治時代に移転。
46	孫次郎間糖森の共同墓地 (むつ市大畑町)	文化14(1817)	奉巡拝三部経一字一石	三国屋利左エ門他4名の名が刻まれている。
47	孫次郎間糖森の共同墓地 (むつ市大畑町)	文政3(1820)	法華経一字一石供養塔	願主三国屋利左エ門、井誉清国比丘。亡くなった人々や先祖の供養のために建立されたものと考えられる。
48	黒森山 (むつ市大畑町)	寛文9(1669)		寛文9年(1669)9月、大沢の池田亀麻呂が、奥ノ院黒森山の観世音へ大乘妙典一石一字を納めた。
49	恐山菩提寺 (むつ市田名部)	寛政2(1790)	大日本回国中供養塔	廻国供養塔。「田名部世話人 熊谷又兵衛政賀 菊池重右衛門政幸」の人名あり。
50	恐山 (むつ市田名部)			岡山県笠岡市・木山公二氏所蔵「大乘妙典納経帳」(元文3・1738)に、恐山で納経している記録がある。
51	独峯山経塚 (むつ市川内町川内)	享保18(1733)		独峯山(標高177m)頂に所在。
52	観音平経塚 (むつ市川内町川内)	近世?		
53	浄土宗流水庵 (むつ市川内町崎崎字寺ノ前)	明和元(1764)		日本回国願主による大乘妙典供養塔。
54	長福寺経塚 (下北郡佐井村)	近世		
55	自由寺経塚 (下北郡風間浦村下風呂)	近世	大乘妙典一字一石・・・	曹洞宗下風呂山自由寺境内に所在。自由寺の創建は、宝暦3年(1753)。